

孫亮大明祚を孫亮なりて九十九里の濱
わたりて海東のつちを越て八十里の濱と
いふ所を越てとあるも六十丁を以て一里と
志す所の事也

或人曰唐国二郡を觀望するに田川郡ハ至
廣く飽海郡ハ至狭く大山松尾大明祚の
を過すありと云ふといふあり古ハけさ傳て
飽海郡よりして松尾大明祚ハ延喜式ノ載
小松尾祚社なりといふ予も先年ハたもあり
りるやとたふふ心をさすもあつたて

其年松尾社考編集の凡そく出かへ傳り
今地利を見且西史を集て熟讀するに田
川郡西濱の事ハ續日本紀ハ明白く南郡の
地利南東北ハ重山つゝなり海邊なりぬを
濱地と云ふ西ハ松尾の古旅所の上より嵐
関と云ふ聲へくも岩鉾よりして濱地なり然ハ
承和六年郡司解備の西濱ハ田川郡今の西
濱をいふ事何の疑あらんや承和ハ五十
代の年号なり延喜祚名帳ハ二十代
天皇
延長五年に出り承和六年ハ延長五年ハ